

PBLプログラム始動

本学独自のPBLの2プログラムが今年度も始まった。1年次生から4年次生まで計約175人が参加し、本格的な活動に向けて意識を高めている。PBLはProject Based Learningの略称で、課題解決型学習と訳される。本学ではキャリアデザインセンターが、問題解決型チャレンジプログラム(旧・課題解決型インターンシップ)、専大ベンチャービジネスプログラムの二つを展開している。

問題解決型チャレンジプログラム

問題解決型チャレンジプログラムは、学生がチームで取り組む本学独自の就業体験プログラム。都内や神奈川県内の企業や行政で、イベントの企画運営や商品・サービス開発など、各団体が提示するテーマに即して学生が主体的に活動する。チームでさまざまな困難を乗り越えることで「論理思考力」「問題解決力」などを鍛える。今年度は20テーマに125人が参加している。



グループワークで意見を交わす受講生たち

5月18日は受け入れ先企業の人事担当者を招いて、チーム活動の心構えを学んだ。全員で結論を導き出す合意形成ゲームでは、危機的状況からどのように抜け出すか議論した。講師は「これからの活動では、メンバーで解釈の違いが出てくるが、し

っかり意見を交わすことが大事だ。合意形成のためにそれぞれが目標を合わせて、チームとしてどう考え行動するかが問われる」と助言した。

専大ベンチャービジネスプログラム

専大ベンチャービジネスプログラムでは、学生の起業家精神(アントレプレナーシップ)養成を目的に、講座やコンテストを開催している。

全9回の「ビジネスプラン作成講座」は、外部講師によるオンライン講義と対面形式のワークショップを通じて、必要な知識やスキルを体系的に身につける。今年度は約50人が受講。ここで作成したプランを磨いて、コンテストに挑戦する学生も多く、昨年度の鳳賞(最優秀賞)受賞者も本講座の受講生だ。

5月18日に行われた今年度2回目のワークショップでは、チームに分かれて2種類のアイデア発想法を体験した。受講生は「入学前からこの講座を受講したいと思っていた。今日のワークでは、先入観や固定観念に疑問を持つことが新たなビジネスにつながるという発見を得られた」と話した。



他チームの発想の過程を見学

経済学部公開講座

日本経済の課題と対策 6教員が多角的に解説



日本経済の動向に関心を持つ多くの受講者が聴講

「低成長と人口減少に続く日本経済の課題や対立ち向かう日本経済」をテーマにした経済学部公開講座が5月6月、生田キャンパスで6回にわたって開催された。低迷が

就職だより

〈今年次生へ〉「駒澤×昭和女子×専修大学合同グループディスカッション実践講座」を7月13日(土)に

対面で実施します。現役人事担当者や就活アドバイザーが面接官を担当し、他大学生と一緒に、本番さながらの環境でグループディスカッションを体験できます。学年を問わず参加可能ですので、気軽に参加してください。開催場所は昭和女子大学(世田谷区太子堂)・詳細は「Sinepus」から「就職アンケート」の回答にもご協力をお願いします。

また、進路決定者は「進路届」を就職支援システム「Sinet」、もしくはキャリア形成支援課窓口にて必ず提出してください。「in Campus」から「就職アンケート」の回答にもご協力をお願いします。

また、進路決定者は「進路届」を就職支援システム「Sinet」、もしくはキャリア形成支援課窓口にて必ず提出してください。「in Campus」から「就職アンケート」の回答にもご協力をお願いします。

第57回黒門祭

6/28(金)30(日) 生田キャンパス 学術文化会に所属する団体が活動成果を発表する。

RESEARCH Conference 2024 神田キャンパスで開催 ネット情報・上平教授が講演

リサーチがテーマの産官学によるRESEARCH Conference 2024が5月18日、神田キャンパスで開催された。同事務局とネットワーク情報学部の共同開催。行政、大手企業、スタートアップなどの実務者が集い、リサーチの価値や可能性について考え、交流を深めることを目的としている。3回目となる今回は、オンラインとオフラインで合計2000人以上が参加した。



講演する上平教授

19の講演セッションがあり、最新のリサーチ活用事例を紹介。その中で上平崇仁ネットワーク情報学部教授は「デザインリサーチと教育」と題して講演した。授業での実践事例を報告し、「ともにくつくること」を通して知ることがある。学生にとっても企業や行政にとっても、新しい問いを見つけるきっかけになる」と語った。

ポスターセッションにはネットワーク情報学部の3組が参加し、昨年度の取り組みを紹介した。

上平研究室は、鹿児島県阿久根市での市場跡地再活用事業の基礎調査について報告。学生が阿久根市で実施したデザインリサーチの様子をつまびらかにし、活用方法を提案した。菅原真唯さん(令6ネット情報)、山根霧羽さん(同)、上山哲太さん(同)は「さまざまな場所を訪ね、たくさんの人たちと話したことは貴重な体験で、自分たちの成長につながった」と語った。



ポスターセッションでは、卒業生が昨年度の調査活動を説明

英語英米文学科・特別総合講義

「食」の視点で作品鑑賞

文学部英語英米文学科の「特別総合講義」では、さまざまな分野の専門家を招き、オムニバス形式の授業を行っている。今年度は中垣恒太郎教授がコーディネーターを務め、「英米文学文化における食の風景」をテーマに、作品の鑑賞・分析方法を学んでいる。

4月24日は、翻訳家で東京大学名誉教授の柴田元幸さんが講義した。マーク・トウェインや、エドガー・アラン・ポーなどの作品を題材に、作中



奥村経世国際交流センター長中央と参加学生

24年度長期交換留学プログラム(第2期)

2024年度長期交換留学プログラム(第2期)の留学生は、英語コースに2人が決まった。留学先と派遣期間、氏名、学部学年は次の通り。(敬称略)

オレゴン大学(米国、6月〜25年3月) 亀山颯太(経済3)▽大槻優太(経営3)

専修人の新しい本

ディスカッション 法と社会



飯孝行 編著

法参加などの24のテーマを取り上げている。各章は、概説、論点、事例とディスカッションからなる。実例や判決に基づいて、法と社会への関心を読者が深めることに留意されている。

法学入門書は数多く、そのほとんどは条文から法を説く。それに対して本書は、社会から法を説く。法社会学のアプローチをとる点に特徴がある。人生と法の関わり、社会生活と法、法の担い手・法の創造の三つのパートで、子ども、教育、事故と災害、高齢者、まちづくり、農業・漁業、沖縄、動物の権利、裁判を通じて法の形成や、市民の司法学。

1からのアントレプレナーシップ(第2版)



足代訓史 共著 (分担執筆)

近年、経済や社会にイノベーションをもたらすものとして「アントレプレナーシップ」というキーワードが着目されている。この言葉は、企業家精神(行動)と訳されることもあり、ゼロからの「起業」だけに関連したものと思われがちであるが、実は、企業の新規事業開発や同族企業の事業

共著者(あじろ・さとし)経営学部教授。経営学(事業創造論、アントレプレナーシップ論)。